

太王四神記 第4話 王になる条件

2008(平成20)年1月2日逢賞<梅田ブルク7>

★★★★



監督=キム・ジョンハク/出演=ベ・ヨンジュン/ユ・スンホ/イ・ジア/シム・ウンギョン/ムン・ソリ/パク・ウンビン/ユン・テヨン/キム・ホヨン/トッコ・ヨンジェ/パク・サンウォン/キム・ソンギョン/オ・グァンロク/チェ・ミンス/キム・ミギョン/パク・ソンウン (2007年韓国ドラマ/64分)

……毒殺未遂事件の鮮やかな処置とアホバカ王子とは明らかに矛盾！ そんな、今後の争いの予兆を見せながら、少年少女たちは第4話の途中で一挙に大人に変身し、ヨン様以下の主要キャストが大登場！ まずは、キョック(撃毬)に見るスタジアムでの戦いが第1ラウンドだが……。

能ある鷹は爪を隠さなければ……

第3話は、ヤン王の毒殺未遂事件の展開とそれを処置するタムドクの活躍が見どころだった。そして細かいことは別として、タムドクが見せた処置は実に鮮やかなものだった。すなわち、結果として侍医の首とヨン夫人の自殺だけでコトを取めたのだが、それを知ったヤン王は大いに嘆くことに。

なぜ、父親に嘆かれるの……？ 毒殺の陰謀を未然に防止して父親の命を救い、さらにそれに伴う犠牲やトラブルも最小限にとどめたのに。タムドクはそう不審に思ったが、ここはどうも父親の判断の方が正しそう。

だって、これからはヨン・ガリョとヨン・ホゲが父子一体となって明確にタムドクに敵対することになったのだから。やはりヤン王が言っていたように、能ある鷹は爪を隠さなければ……。

ここで語られる出生の秘密は……？

ここではじめてタムドクが聞かされるのは、タムドクの父ヤン王ことオジジの出生についての重大な秘密。それは、オジジの父王の時代の高句麗が後燕と戦って敗北し

特集

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う！

た時、父王の妻は捕虜として後燕に連れて行かれ、その後13年を経てやっと高句麗に戻ったのだが、その時彼女は1人の息子を連れて帰つたらしい。すると、その息子は一体誰の子……？ 父王の子、それとも後燕の武将との間に生まれた子……？

はじめて父親からそんな告白をされたタムドクは戸惑ったが、その後のオジジの説明はタムドクを安心させるものだった。すなわち、実際は、王妃が捕虜とされた時既にその子すなわちオジジは母親のお腹の中にいたということだ。したがって、オジジが正統な血統なら、その息子タムドクも正統な血統。ところが、世間は容易にそれを認めなかったばかりか、妹のヨン夫人さえもオジジを疎んじたため、オジジは田舎で馬を飼うという生活をしていたというわけだ。なるほど、なるほど。

それから数年後……

第4話の中盤、映画ならではのテクニックが一斉に働き、俳優陣が一変するからそこにご注目！ つまり、それから数年後、少年少女だった主人公たちは一斉に大人に変身（といっても、タムドク、ヨン・ホゲ、スジニは17歳、キハは22歳くらい）！なるほど、これがあるから第1話～第4話までの一挙上映が1つのユニットとして意味を持つわけだ。

まずは、夜な夜な秘かに王宮を抜け出し、王の世継ぎであることを隠して、平服で市場をあちこち歩き回っているヨン様扮するタムドクの登場。知恵に長けた彼は、市場間でいろいろな仲買業をやっているらしい。

そんなタムドクが今見つけているのは、よく回る口でしゃべくりながら、ルーレット賭博(?)を楽しんでいるスジニの姿。大人に成長したスジニを演ずるのは新人のイ・ジアだが、韓国では次々とこんな魅力的な女優が育っていることに感心！ もっとも、これが第1話で熊族の女セオを演じた女優と同一人物かと思うと、それにもビックリ！

他方、何かとタムドクに情報と知恵を提供していたキハも大人になったが、それを演ずるのは第1話での古代人姿が魅力的だったムン・ソリだ。

タムドクとスジニとの出会いはコミカルだが……？

このように一気に大人になった少年少女たちだが、師匠のヒョンゴと共に国内(クンネ)城に来ているスジニはいろいろと情報集めのかたわら、賭博やスリにも大忙し。

そんなタムドクとスジニの出会いはコミカルで面白い。

スジニのスリの様子や「泥棒！」と追っかけられる様子をのんびり見学していたタムドクだったが、自分の胸元からサイフを盗まれようとした時は、さすがにその対応は素早かった。ここではじめて2人が口をきくことになるわけだが、その後、「タレの店」では……？ さらに、居酒屋の2階でのドタバタ劇は……？ スジニが市場で偶然に出会ったタムドクにずっとつきまとったのはタムドクが金持ちのボンボンだと踏んだためだが、その後2人の仲は……？ 多分、それは第5話以降のお楽しみ……？

大人になったヨン・ホゲは……？

タムドクが大人になれば、その3日先に生まれたヨン・ホゲも大人になるのは当然。そこで、4話のラスト近くになっての大人になったヨン・ホゲ（ユン・テヨン）の登場は、キョック（擊毬）チーム黄軍のキャプテンという凛々しい姿。ちなみにキョックとは、イギリスの「ポロ」と似たようなゲームで、馬に乗って杖匙（チャンシ）と呼ばれるスティックで球を打ち、相手側のゴールを通過させるゲーム。

また、現在日本で行われている toto と同じように、キョックの試合の優勝チームをかけたバクチでは、ヨン・ホゲの黄軍は圧倒的な人気。しかし、そこでスジニはあえて逆張りをして黒軍に。これは2007年12月23日の有馬記念杯でアッと驚く大波乱が起こり、3連単でこのレース最高の80万3880円という配当が出たことを思えば、当然……？

それはともかく、ここで強調しておきたいのは、大人になったヨン・ホゲは性格が一変したうえ無口になってしまったこと。それは一体なぜ……？ その答えは明白。今のヨン・ホゲにはタムドクに対する復讐しかその頭にないからだ。ヨン・ホゲの戦略は、このキョックの試合で自分の実力を国中の民に見せつけ、次期王位にはタムドクよりも自分がふさわしいことを見せつけることだ。

そんなキョックの試合を平服のタムドクはスジニと並んで大観衆の中に紛れて観ていたが、さてその試合の結果は……？ そして、第5話以降、一体どんな展開が……？

新たにチュムチも登場！

第4話でもヒョンゴと一緒に国内（クンネ）城に来ているスジニがチョロチョロと動き回り、それが人と人を結びつける役割を果たしている。その1つは、すごい切れ味の斧をもった傭兵集団のボス、チュムチ（パク・ソンウン）を鍛冶師のバソン（キム・ミギョン）に紹介したこと。鍛冶屋を仕切っている肝っ玉母さんのバソンは、この斧は手入れすると切れすぎるからヤバイと言っていったんは拒否したのだが、そこでチュムチがみせた斧の威力にビックリさせられた挙げ句、結局その手入れをすることに。

第4話での出番は少ないが、このチュムチは今後重要な役割を果たしそう。そこで、先読みながらネットで調べてみると、彼は白竜の守り主となるらしい。なるほど、なるほど……。

1話ごとに話が膨らみ、登場人物も厚みを加えてくるようだから、第5話以降も大いに楽しみだ。

2008(平成20)年1月7日記